

## 学校法人五島育英会 平成19年度事業計画

### 平成19年度事業計画の概要

平成19年度は、大学がいわゆる「全入時代」に突入する年度であり、私学は、こうした需要構造の厳しさによって、いよいよ競争と淘汰の本格的な時代となった。私学を取巻く大きな環境変化を踏まえ、本法人もその運営基盤をより充実させなければならない。したがって、学生・生徒等確保の求心力となり得る魅力ある学校づくりへ向けて戦略と施策を講じ、長いサイクルでの努力の継続をもってこれを浸透させていく必要がある。今こそこれまで培ってきた社会的信頼を維持し、永続性を確保するために、より私学の特性を生かし、質的向上への努力を具体的に積み重ねることがますます重要な課題となった。

これらを踏まえ、本法人の組織の活性化と両大学の教育資源を有効に生かすべく、武蔵工業大学及び東横学園女子短期大学の将来構想等について検討を進めてきた「大学緊密化委員会」の答申に基づき、東横学園女子短期大学を先進性の高い四年制新学部に進化させ、平成20年度に武蔵工業大学と統合するための具体的な取組みを行う。又これと併行して武蔵工業大学において、教育・研究の質を高めることを目的に学部学科の再編成を図ることとし、時代に即した工学部生体医工学科並びに知識工学部（3学科）を開設する。

財政面においては、厳しい経営状況の下、教育環境の充実を目指し、老朽施設及び設備等の更新計画を実施することとし、経費の一層の削減を図る。

人事政策においては、新たな人事制度を総合的に構築し、まず、本年度事務職管理職に導入し、以降その範囲を段階的に拡げること目標とする。

教育面においては、各学校建学の精神に基づき、常に魅力ある教育システムを有する学校群を構築することを目的として各事業を実施する。

## 重点事業計画

### 1. 人事・広報

#### [職員配置]

平成19年度の職員配置については、特に武蔵工業大学において、平成19年4月に学部学科の再編成を行ない、工学部生体医工学科及び知識工学部（3学科）を開設し、現在の教育・研究の質を更に高め、今日の高度情報化社会に適應できる人材育成を目指すことに配慮した配置とする。

#### [平成19年度 職員配置]

職 種 学校名		専任職員				対前年度
		教育職員	技術職員	事務職員	計	
武蔵工業大学	工学部(院)	102	34	78	214	83
	原子力研究所	5	2	2	9	0
	知識工学部	76	16	5	97	97
	環境情報学部(院)	49		42	91	1
	附属高等学校	42		10	52	3
	〃 中学校	25		2	27	5
	第二高等学校	36		10	46	2
東横学園	女子短期大学	24	4	19	47	2
	高等学校	23		5	28	2
	中学校	13		1	14	1
	大倉山高等学校	16		4	20	0
	小学校	18		5	23	0
	二子幼稚園	10		1	11	0
東急自動車整備専門学校 東急自動車学校		8	77	21	106	6
法人事務局 事業部				34	34	2
計		447	133	239	819	20

#### [新人事制度の導入]（目標管理評価制度）

多様化する教育ニーズに迅速かつ適切に対応するため、事務職員においても、更なる専門性、幅広い業務に対する多様性、柔軟性が求められている。これらの使命を具現化していくため、更に職員の意識改革、質的向上等人材育成の強化を図ることを目的として、本年度新たな人事制度を構築し、その第一段階として事務管理職に「目標管理評価制度」を導入し、個々の職員に対し改めて自己研鑽を促してレベルアップを図り、ひいては事務組織全体の資質の向上を推進するものとする。

#### [事務組織再編成の検討]

本法人の将来構想に基づき、平成20年度に武蔵工業大学に東横学園女子短期大学を統合することから、事務組織についても、現在、各キャンパス間で行なっている各業務のシステム統合の必要性があり、早急にこれに対応した事務組織を構築するため、プロジェクトチームを創設し、各キャンパスにおける業務内容の検証、業務分析等を行い、適正人員を把握し、業務の効率化を含めた方策を展開し、事務組織の機能強化を重点的に推進する。さらに今後ますます多様化する業務についても柔軟に対応し、時代の要請に適應する質の高いサポート体制（教育研究支援機能、学生サービスの向上等）を新たに構築する。

## [広報活動]

学園全体の様々な改革を戦略的に促進させるためには、様々なステークホルダーとの関係作りや学内外におけるコミュニケーション環境の横断的な整備を行う。これに関連し以下の広報活動を推進する。

### (1) 募集広報

従来、各学校が行なっている入学志願者の拡大を主たる目的とした広報活動であるが、これに加え、学園全体に共通する情報も関連付けしながら、以下の広報活動を推進する。

平成20年度の武蔵工業大学と東横学園女子短期大学の統合による新しい学部の募集広報については、特にこれまでの両大学の募集広報で培った実績に基づき、さらに新たなマーケットの開拓を強力に推進する。

高校以下の学校群については、従来の募集広報に加え、法人全体としての連携等による発信などを含めた募集広報を推進する。

### (2) 一般広報

学園全体の価値向上や社会からの信頼や期待感の向上を目的とし、以下の広報活動を推進する。

平成20年度の武蔵工業大学と東横学園女子短期大学の統合による新しい大学のブランド作りのための広報。

学園全体の教育理念や方針を含めた、メッセージの積極的・継続的な発信。

教育研究や正課外教育、産学連携等の成果を顕在化させるためにパブリシティを積極的に利用した広報。

定常的に社会動向や各学校の評価を把握・分析し的確な経営判断に資するための、広聴機能の向上。

アニュアルレポートを印刷物やホームページの形式で作成し、これを用いた様々なステークホルダーへ向けた法人全体の年次報告の実施。

### (3) 内部広報

法人改革への意識と行動の共有へ向けて、全体の情報の体系化を進めるために、以下の広報活動を推進する。

法人全体の広報情報を共有化できるコミュニケーション環境の見直しや整備（Web媒体等を積極的に利用した情報共有、的確なタイミングでの情報の受発信など）。

教職員一人ひとりが広報マンであることの意識づくり（意識喚起を促すマニュアル作り・研修など）。

## 2. 財務

平成19年度は、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学統合に向けての具体的な取り組みを行う初年度である。

平成19年度予算には、経常的な教育研究活動はもとより、武蔵工業大学世田谷キャンパス整備事業、小学校校舎増改築事業など、施設等の投資活動に大きなウエイトが占められている。そのためには、長期計画に基づいた安定的な収入の確保は当然のこととして、支出面では、今までに増して資金

の外部流出を防ぐことが重要な要素となるため、より一層経常経費の削減に努め健全な財務体制の確立を目指す。

一方、積立資産の運用については、施設建設により資金需要が増すことにより、積立資産が減少する中、安全確実に合理的な資産運用を行い収入の確保を行う。

### 3．学生・生徒募集計画

#### [平成19年度の学生生徒等の予定在籍状況]

< 末尾表参考 >

#### [本年度募集計画]

学長や学校長のリーダーシップの下、下記の取り組みを推進する。

- (1) 当年度募集活動の結果分析と改善提案を早急に行い、募集計画を策定し、関連業務を開始する。
- (2) 既存の入試方式等を含め、多様な入試の設定を検討し、優秀な学生・生徒等の確保に努める。

### 4．施設・設備計画

主な施設・設備計画については下記の通りである。詳細は「設置学校の事業計画」参照。

#### (1) 用地買収計画

東横学園小学校：敷地内国有地の買収

#### (2) 施設・設備計画

武蔵工業大学

ア 世田谷キャンパス3号館知識工学部研究室整備及び2階実験室改修工事

イ 世田谷キャンパス6号館耐震補強工事

ウ 世田谷キャンパス6号館B2教室改修工事

エ 世田谷キャンパス10号館生体医工学科実験実習室改修工事

オ 総合研究所既存棟外装改修工事

武蔵工業大学新学部（東横学園女子短期大学内）

校舎改築・改修工事

東横学園女子短期大学

ア 2号館耐震補強工事

イ 1・2・3号館屋上防水工事

東横学園小学校

校舎建替工事

### 5．その他

収益事業（不動産貸付業・五島育英会ビル）

平成18年度において、修繕積立金の増額を行ったが、これを原資として、手当てすべ

き設備の整備、設備の信頼性向上及び入居者・利用者の安全面を向上させることに主眼を置いた対策を行う。

入居者の安全を確保するために必要な防災用品の備蓄をすすめる。

渋谷駅周辺地区のビル賃料が上昇傾向にあることから、当ビル賃料の値上げを検討する。

## 設置学校の事業計画

### 1. 武蔵工業大学

#### (1) 重点事業計画

学部改組後の教育・研究の円滑な実施

平成19年4月から開設する工学部生体医工学科、知識工学部(情報科学科、情報ネットワーク工学科、応用情報工学科)が円滑に教育・研究を展開できるように、旧学科と並存する中において授業・研究室等を変更・調整し、学群制・コース制の導入による教育・研究を実行に移していく。

東横学園女子短期大学との統合に伴う都市生活学部・人間科学部並びに工学部原子力安全工学科の設置準備

大学統合推進実行委員会・事務室が中心となって進めてきた統合に伴う新学部の設置並びに工学部原子力安全工学科の設置に際して、カリキュラムの構築、教員構成の検討等開設に向けた準備を進める。

教員の業績評価システムの構築・試行

自己評価・教員業績評価委員会で進めているITを利用した教員の教育・研究に関する業績登録のシステムの構築と試行、検証を行う。

平成20年度以降の教職員定員の策定

各学部・学科の負担の公平化を図り、収入減少への対応として人件費抑制を図るため、各学部・学科等の教職員数の適正化と定員数の設定を進める。

経常教育研究費配分の全学共通指針と施策の設定

各学部、大学院へ配分される経常教育研究費を削減せざるを得ない状況下で、有効かつ公平な研究費配分を行うための重点配分方法を提案し、その実行を進める。

#### (2) 教育活動

学部・学科改組、学群・コース制への取り組み

ア 新・旧カリキュラムの学生が並立する状況の中で教員配置、授業内容の整合性等に留意して十分な教育が担保できるよう監視と検証を行う。

イ 学群・コース制導入に伴い、学群及び主・副コース制の趣旨と内容を学生が理解し、学習意欲を高めるよう資料を作成し、ガイダンスを通して十分に指導する。

時代に即した教育効果向上への取り組み

ア 現代社会で必須となったプレゼンテーション能力の育成を、実験・実習と組み合わせより具体的に行い、その効果の実現を図る。

イ 環境情報学部におけるコース制導入の趣旨を踏まえ、適切な授業配置やネットワークを用いた教室間連携授業等を行い、学生満足度と教育効果を高める方策を探る。

ウ 環境情報学部における環境情報フィールド演習、環境リテラシー、LAN環境演習、コンピュータ言語演習等について、特色ある講義内容とし、講義体制と環境の整備及び学科を超えたコンピュータ言語演習への支援体制の充実を図る。

エ 専任教員、非常勤教員の担当コマ数の適正化を図る。

学部を横断した共通教育システム確立の検討

平成20年度に2つの文系学部が等々力キャンパスに誕生するが、世田谷キャンパスとは立地も近いので、統合のスケールメリットを発揮するため、基礎教育の適正化、合理化を図る。そのため、横浜キャンパスを含め、基礎教育を担当する部署を全学的な共通教育センター(仮称)として統合し、基礎教育の適正化、合理化の実現を図る。

FD活動(教育実践研究会等)

教育活動の実践例をもとに情報共有と授業改善に向けた方策等を見出し、その提案の実現化策をつくる。

大学院教育

ア 広い専門分野で応用のきく基礎科目の充実と、社会ニーズにあったカリキュラムの体系化を図る。

イ 国内外教育関係機関との連携強化を進める。

ウ 入試方式、推薦入学資格の見直し等大学院生数増加策を検討する。

### (3) 研究・研修活動

特色ある研究の推進

本学における高度な研究と学生教育に確固たる姿勢で取り組み、研究成果を広く社会に発信することを目的に、総合研究所を中心とした大型プロジェクトの推進や産学連携の一層の強化を図る。又、本学の特色ある研究のひとつである水素エネルギーに関して、世界に伍するグローバルな研究拠点とすべくグローバルCOEに申請する。併せて科学研究費補助金などの競争的研究資金制度に積極的に応募し、活用を図っていく。

特色あるプロジェクトの実施

総合研究所における研究プロジェクトを継続的に推進し、研究成果をあげるため研究プロジェクトに育成すべき萌芽的プロジェクトを全面的に募り、その中から、将来的に総合研究所の研究プロジェクトとして推進するにふさわしいプロジェクトを見出し、それを重点的に進める。

### (4) 産学連携・共同事業等

産学連携フォーラム

2005年7月に学内のイノベーションと産業界とのコラボレーションを促す産学連携フォーラムを総合研究所内に設立した。学内の技術の掘り起こしとその移転を促進するため、大学と企業間を結ぶディレクターを置き、引き続き大学と企業の技術交流会やインターンシップを推進し、共同研究や技術移転を促進する。

産官学交流センター

2000年に設立した産官学交流センターにおいて、引き続き以下の事項に取り組

む。

ア ニュースレター、メールマガジンの配信など学内外への積極的な情報発信

イ 東京都、横浜市、川崎市など自治体主催による産官学連携イベントの参加

ウ 本学主催による「マイテック産学技術交流会」の開催

エ 研究室見学の受入れ

オ 産学連携セミナー等への講師派遣

カ 技術相談の受入れ（研究者の紹介）

キ 共同研究、受託研究の支援

ク プロジェクト研究の支援

ケ 知的財産の管理

高大連携

本学付属の第二高等学校からの入学者の増加を図るため、同校との連携を強化し、入学予定者に対する入学前教育の実施、入学後のリメディアル教育・相談窓口の開設等によるアフターケア等を図る。

#### (5) 施設設備計画

3号館知識工学部研究室整備及び2階実験室改修工事

知識工学部の設置に伴い、世田谷キャンパス3号館の研究室及び実験室の改修工事を行う。

6号館耐震補強工事

世田谷キャンパス6号館（昭和36年竣工）は、新耐震設計以前の建物のため、補強工事を実施する。

6号館B2教室改修工事

世田谷キャンパス6号館B2教室の改修工事を行う。

10号館生体医工学科実験実習室改修工事

生体医工学科の設置に伴い、世田谷キャンパス10号館実験実習室の改修工事を行う。

総合研究所既存棟外装改修工事

総合研究所既存棟の外装の劣化が目立つため、改修工事を行う。

#### (6) 特別計画

原子炉廃炉関係

今年度は原子炉室内主要構造物の解体、放射性廃棄物廃棄施設の整備等を行う。

## 2. 武蔵工業大学付属中学校高等学校

### (1) 重点事業計画

平成19年度から6ヶ年一貫教育への新体制に移行することに伴い、これを実行可能にするためのマニュアルを作成し、学習体制の確立と機構の整備を図り、計画的指導体制の確立を目指す。

## (2) 教育活動

6カ年の進路目標を確認し、実現のための指導体制の充実を図る。  
理工系分野への対応、IT情報への対応の充実を図る。  
進学校としてのシラバスの充実を図り、進学の結果の拡大と学力の向上を図る。  
生活カリキュラムの定着を図る。

### 3. 武蔵工業大学第二高等学校

#### (1) 重点事業計画

入学者増加と中退者の削減のための組織的な活動

ア 進路実績の向上(個別指導の徹底、塾・予備校との提携、中学校との各種連携等)

イ 組織的な指導(学年会、教科担任会、生活指導部、カウンセラー)

情報の共有による職員集団全体の意識改革と組織の見直し(企画調整連絡会議の立上げ、各部会・委員会・学年会・教科会との連携)・分掌の合理化・業務の合理的分担化

外部への情報発信(マスコミ等への積極的なニュースリリース等)

学校自己評価制度の徹底見直しと対応策・外部評価の活用・CSの重視

入試制度改革

特別入試、自己推薦入試等のあり方について検証、検討を加え、志願者増加に繋がる入試システムへと見直しを図る。併せて市場調査・生徒・保護者の満足度調査を行う。

#### (2) 教育活動

放課後学習の充実、学習クラブを中心とした個人カリキュラムの作成

工業教育を主体としたものづくり学習の徹底、各種資格取得、技能検定のための特別指導の実施

生徒キャリアカードの作成、外部講師の招聘、インターンシップ制度の充実を図る。

#### (3) 研究・研修活動

職員研修会の実施、校外研修参加者の報告会の実施

校内公開授業の実施、校内研究紀要の作成

生活指導、進路指導等各部会、各委員会及び学年会が横との連携を強めながら総力で対応する運営委員会の設置

#### (4) 産学連携・共同事業

武蔵工業大学との連携強化

塩尻商工会議所、ボランティア団体との連携

幼稚園、小学校、中学校へのアプローチ・連携強化

### 4. 東横学園女子短期大学

#### (1) 重点事業計画

四大化への移行準備と短大の段階的撤収計画

学習及び就職支援体制の強化

( 2 ) 教育活動

特色ある大学教育改革の支援プログラムの継続的取組みと採択の推進

現代G P (平成17年度採択分) 実践力ある保育者養成実現の教育プログラム

学内の子育て支援センター「ぴっぴ」の効果的活用

現代G P 又は特色G P への申請 (準備)

( 3 ) 研究・研修活動

教員各々の研究目標に従い、成果が見える形で自己研鑽を推進する。又科学研究費等の採択に向け、継続して努力し、独創的な発想に基づく研究、先駆的な研究分野の展開につながるような研究等を目指す。

教務委員会を中心にしてFD活動を推進し、授業改善及び点検・評価に努め、学生への質の高い教育の提供に継続して取り組む。

( 4 ) 産学連携・共同事業等

インターンシップの継続的实施

外部資金を得て新規開発に取り組む

世田谷区及び同関連団体との連携の更なる強化 (子育て支援、災害時支援、環境保護等)

( 5 ) 施設設備計画

2号館耐震補強工事

2号館(昭和54年竣工)は、新耐震設計以前の建物のため、補強工事を実施する。

1・2・3号館屋上防水工事

1号館・2号館・3号館の漏水対策として、屋上防水工事を実施する。

## 5 . 東横学園中学校高等学校

( 1 ) 重点事業計画

新規開設の英語留学コース、短期クラスのハイレベルな授業の提供に向け尽力する。

難関大学への進学実績を向上維持できるよう受験指導を一層強化する。

四年制大学への進学率の更なる上昇を目指す。

英語留学コースの生徒の留学に対する安全・安心面の確保を最優先に考え、その準備を万全に整える。

サテライト授業を導入し、受験指導の充実強化を図る。

特待生制度の導入及び長期留学クラス生徒の授業料減免措置の実施による金銭面の支援

海外からの短期留学生の積極的な受入れを行い、生徒の教育効果を高める。

生徒確保に向けた広報活動の継続

( 2 ) 教育活動

生徒対象講演会、その他行事等の実施

総合的な学習の時間においては、学外プログラムの導入を含め、充実したキャリア

アビジョン教育が推進できるように計画

サテライト授業、グローバルイングリッシュ等を含めて、情報機器を利用した授業の更なる充実

英語検定、漢字検定等資格取得の更なる推進

(3) 研究・研修活動

研修会への積極的な参加の推進

ア 教員の資質及び指導力向上のための学校主催教員対象研修会・各種研修会の実施

イ 東京私立中学高等学校協会主催の各教科研修への積極的参加

ウ 学校運営(教務・生徒指導等)に係る宿泊研修参加の推進

エ 生徒・教員対象の救急救命研修会の継続的实施

オ 海外研修制度の有効活用

(4) 産学連携・共同事業等

プレインターンシップの実施、クエストエデュケーションプログラム(企業探究プログラム)の導入により生徒の社会性の構築や進路目標設定に役立てる。

武蔵工業大学環境情報学部からの支援・指導により中学総合学習及び高校情報科授業をより高度なものとする。

## 6. 東横学園大倉山高等学校

(1) 重点事業計画

平成17年度より取組んできた「三ヶ年教育計画」を全て順調に実施し、平成20年度東横学園中学校・高等学校との統合が滞りなく、又東横学園の新たな発展につなげることを目標とする。

(2) 教育活動

学力を確実に向上させる取組みに全力をあげ、生徒の進路希望を高いレベルで実現する。

一学年のみの構成となるが、工夫をこらして諸行事及び新たな諸企画を実施する。

グローバルイングリッシュの新規導入

教員のスキルアップを確実に進める。

(3) 研究・研修活動

教職員新規研修計画を検討

全教師輪番による全校講話

生徒による教員授業評価、研究授業の継続

3ヶ年教育計画への教職員の取組み報告の実施

(4) 産学連携・共同事業等

進路指導等において武蔵工業大学、東横学園女子短期大学と密接な連絡を図り、指導及び必要な協力を仰ぐ。

統合に向けて、東横学園中学校・高等学校との連携を密接にはかる。

## 7．東横学園小学校

- (1) 重点事業目標
  - 高い学力を身につけるための学習環境の整備
  - 入学試験改革の検討（入学試験日・選抜方法）
- (2) 教育活動
  - 学習指導面 教科課程の精選
  - 生活指導面 安全教育・心の教育
  - 進学実績の向上 国語・算数習熟度別学習の確立
- (3) 研究・研修活動
  - 学内 教科研究部の活性化、授業研究の充実
  - 学外 研究会、研修会への積極な参加
- (4) 施設設備計画
  - 校舎建替工事の実施

## 8．東横学園二子幼稚園

- (1) 重点事業計画
  - 研究、研修課題を決めて、保育内容の充実と教員の質を高めていく。
  - 園児一人ひとりを大切に育てていることや、保育内容の良さをより理解してもらえよう映像で紹介する等広報活動に尽力する。
- (2) 教育活動
  - 様々な人とかかわりあう体験をすることで、コミュニケーションをとり、生活体験を広げる。具体的には、先生や友達と共に過ごす楽しみをあげよう活動を行う。又学期ごとに成長に合わせながら、たて割りやグループの活動を行う。
  - 学年の目標
    - ア 年少組 幼稚園で先生や友達と関わりながら遊ぶ。
    - イ 年中組 友達や年少・年長組と関わる中で、園のきまりを守る。
    - ウ 年長組 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。良いこと悪いことをよく考えて行動し、友達とのかかわりを深める。

## 9．東急自動車整備専門学校

- (1) 重点事業計画
  - 学生確保に向けた広報活動の強化
  - 外国人留学生受入れの検討
  - 一級整備士の養成課程の導入検討
- (2) 教育活動
  - 資格取得の充実を図る。（フォークリフト運転、有機溶剤取扱）
  - ボランティア活動、マナー教育で豊かな人間性を涵養する。
  - 自動車整備士国家試験の全員合格

( 3 ) 研究・研修活動

ビジネスマナー研修の実施

- ( 4 ) 東急自動車学校においては、「サービスの絶対差」を目指すことにより、「足腰の強い学校づくり」を一層押し進める。